

2018年ルール改正

アマチュア野球規則委員会通達に対する日本リトルシニアとしての取り扱いについて以下の5点について適用します。

尚、**関西連盟としては春季大会ブロック予選より適用**します。

1. 反則投球（いわゆる二段モーション）

これまでは、走者無しで、いわゆる二段モーションを行った場合には、ボールを宣告されたが、今季からは宣告されない。ただし、走者がいる場合には従来通りボークとなる。

2. ベンチ前のキャッチボールの禁止

2018年度のシーズンよりすべての試合で適用する。

これまでインターバルでの準備投球を3球、あるいは5球などとしてきたが、公認野球規則5.07（b）に記載の通り8球以内、または1分以内とする。この適用に伴い、ブルペンでの投球練習1組のみとし、いかなる時も素振りを禁止する。

3. 「ミットを動かすな」運動

投球を受けた捕手が、ボールをストライクに見せようとする意図でキャッチャーミットを動かしたりする行為についてはマナーアップ・フェアプレーの両面から、止めさせる運動を徹底する

4. 没収試合の防止

登録外選手が試合に出場し、これがプレイ後に判明したときは、大会規程により試合中であれば没収試合とし、試合後であれば、そのチームが勝利していた場合は勝利を取り消し、相手チームに勝利を与える。

ただし、今回の改正で登録外選手が、

イ：自チームの所属以外の選手であった場合に適用する。

ロ：単純なミスの場合（監督とマネジャーの連絡ミスで、登録外選手が自チームの選手である場合など）には適用しない

5. 故意四球

リトルシニアでは適用しない。